

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

政策	2 世界レベルの芸術文化・スポーツを楽しむ機会の拡大を推進します
----	----------------------------------

施策	1 芸術文化を通じた交流の推進と賑わい創出
----	-----------------------

施策の目的	本市では、総合的かつ持続的な文化の振興を図り、個性豊かなしおか文化の創造と、文化を活かした交流による活力あふれるまちづくりに寄与するため、平成28年4月に「静岡市創造及び交流によりまちの活力を生み出す文化の振興に関する条例」を制定しました。 平成29年3月には同条例に基づく「静岡市文化振興計画」を策定し、文化の持つ創造性を地域振興や観光・経済振興等に活かす『創造都市』としての取組を積極的に進めていくこととしました。今後は同計画に基づき、静岡らしい特色ある文化事業の実施や文化事業の開催による賑わい創出により、第3次総合計画に掲げる「世界に輝く静岡」の実現を目指します。
-------	---

評価責任者	所属	観光交流文化局 文化振興課
	氏名	課長 望月 雅乃

## (1) 総合評価

総合評価	令和元年度	<b>A：施策の目的が達成されている。</b>	理由	令和元年度は、全体目標の達成はできなかったが、イベント別で見るとほぼ目標を達成している。台風の影響で中止した羽衣まつりや、規模を縮小して開催したA級順位戦最終局などは、大幅に目標を達成できなかったため、今後、参加者数の増加に向け一層の周知が必要であると考えます。
	令和2年度	—	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、施設が休館又は利用停止になったり一部事業が中止となった。また、設定している指標「芸術文化事業来場者数」について、新型コロナウイルス感染症の影響を受け事業の中止・規模縮小での実施となり適正な実績値を測定することができなかったため、評価することができない。
	令和3年度	<b>B：施策の目的があまり達成されていない。</b>	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、施設が休館又は利用停止になったり一部事業が中止となり、イベントの中止による集客数の今後の低下が見込まれるため、今後、参加者数の増加に向け一層の周知が必要であると考えます。
	令和4年度	<b>S：施策の目的が十分に達成されている。</b>	理由	静岡市民文化会館におけるロングラン公演の実施により、実績値が大幅に伸びたため、目標値を上回ることができた。また、市外、県外からの来場も多かったことから、引き続き文化事業による賑わい創出を図っていく。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## (2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（％）	評価	目標値の算出根拠
			1	372,100人	353,691人	95.1%	a	
芸術文化事業来場者数	現状値：348,251人 (2017)	2	260,500人	228,804人	87.8%	b	本年度は過去2か年と比較し、事業参加者数のコロナからの回復が見られることが想定されるため、令和元年度実績の80%とする。(100未満四捨五入)	
		3	317,000人	213,506人	67.3%	—		
		4	283,000人	301,626人	106.5%	s		
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
指標以外の成果		2						
		3						
		4						
		1						

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
文化施設における芸術文化事業の企画・開催	静岡市民文化会館、静岡音楽館、静岡科学館、静岡市美術館等の文化施設で行われる特色ある文化事業の開催		1	374,540	0	350,618	10.0	4.0	0.0	○
			2	386,415	0	303,441	10.0		4.0	
			3	392,259	0	365,239	10.0	—	—	
			4	395,905	—	365,829	10.0	—	—	
大規模芸術文化事業の誘致	演劇等ロングラン公演の誘致、開催		1	0	0	0	3.0	0.0	0.0	○
			2	0	0	0	3.0		0.0	
			3	0	0	0	3.0		0.0	
			4	0	0	0	3.0		0.0	
A級順位戦最終局開催事業	家康公顕彰四百年記念事業の一環として開始した「A級順位戦最終局（旧名称：将棋名人戦第0局）」の開催		1	7,000	0	6,286	2.0	0.0	0.0	○
			2	7,000	0	6,750	2.0		0.0	
			3	7,000	0	6,972	2.0		0.0	
			4	7,500	0	7,234	2.0		0.0	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

令和4年度は、ロングラン公演により、目標値を上回ることができたが、一方でそれ以外の事業の実績値は新型コロナウイルスの影響もあり伸び悩んでいる。5類感染症移行を契機と捉え、これまで参加を控えていた市民に対する情報発信等を強化し、コロナ禍前の水準に戻るよう取り組んでいく。

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

評価責任者	所属	観光交流文化局 スポーツ交流課
	氏名	課長 宮城島 清也

政策	2 世界レベルの芸術文化・スポーツを楽しむ機会の拡大を推進します
----	----------------------------------

施策	2 スポーツを活かしたMICEの推進
----	--------------------

施策の目的	本市スポーツ推進計画では、スポーツを「観る」、「する」、「支える」と大きく3つの視点で推進しています。その中でも「観る」、「する」に関連して、全国規模の大会の開催、また、静岡に根付くサッカー・野球の魅力を磨き上げることにより、静岡市民はもとより、市外、県外へも静岡市の魅力を発信することにより、市外や県外から静岡市を訪れる人を増やします。
-------	---

## (1) 総合評価

総合評価	令和元年度	<b>B：施策の目的があまり達成されていない。</b>	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、静岡マラソン、静岡野球ウィークなどの大規模イベントが中止となり、目標を大きく下回った。ただし、中止となったイベントの事前参加申し込み状況から、市外からの参加予定人数は把握できており、予定どおり開催されていれば、成果指標は「b」評価となつたと見込まれるため、総合評価は「B」とした。
	令和2年度	—	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、静岡マラソン、静岡野球ウィークなどの大規模イベントが中止となり、成果指標である「市外から各種大会に参加する人の数」の実績値を測定することができなかったため、評価することができない。
	令和3年度	—	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、大規模イベントである静岡マラソンが中止となり、成果指標である「市外から各種大会に参加する人の数」の実績値を測定することができなかったため、評価することができない。
	令和4年度	<b>C：施策の目的が達成されていない。</b>	理由	野球ウィーク等の市外参加者が見込まれるイベントが再開をしたが、大規模イベントである静岡マラソンが休止となり、成果指標である「市外から各種大会に参加する人の数」の実績値が目標値に達しないため、総合評価は「C」とした。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## (2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠		
	成果指標	市外から各種大会に参加する人の数（人／年）	18,313人 (H27～29平均)	1	18,735人	5,019人	26.8%		d	第3次総合計画後期実施計画最終年度である令和4年度に現状値から10%程度増加することを目標に、各年度2.5%程度の増加を目標値とした。
2				19,157人	984人	5.1%	d			
3				19,578人	3,766人	19.2%	d			
4				20,000人	2,952人	14.7%	d			
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							
指標以外の成果		静岡マラソンの再開に向けて、他都市のマラソンを視察し、運営体制の構築等についての意見交換を行った。								

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
静岡マラソンの開催	①静岡マラソン開催に係る静岡マラソン実行委員会への補助金交付。 ②開催に伴う市関係機関との調整及び広報。	1	1	45,000	0	37,736	0.6	0.0	0.0	—
			2	45,000	0	436	0.6		0.0	
			3	500	10,000	240	0.6		0.0	
			4	740	0	175	0.2		0.0	
サッカー、野球によるまちづくり	①サッカーによるまちづくりとして、全国規模のサッカー大会の開催のほか、地域の賑わい創出やコミュニティ機能向上、青少年育成に関する事業などを推進。 ②野球によるまちづくりとして、市民野球熱の醸成を推進するイベント・大会の開催や情報発信等を実施。	2	1	42,732	0	34,033	3.0	1.0	0.0	○
			2	27,198	0	16,186	3.0		1.0	
			3	44,133	5,000	31,176	3.0		1.0	
			4	41,513	0	28,237	3.0		1.0	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後の取組や方向性

・都市のステータスの一つになっている都市型フルマラソンとして静岡マラソンを早期再開させるために、まずは行政が主体となり復活させ、運営が軌道に乗ってきたら再び民間主導の大会として支援を行っていく。また、再開に向けて、関係機関、地元との調整を密に行っていく。

・全国少年少女草サッカー大会のほか、各種スポーツ大会の実施を支援し、県外からの訪れる人の増加を図っていく。

・台湾をはじめとする各国代表チームやプロチームの合宿を誘致し、広く合宿誘致をPRするとともに、受け入れノウハウを取得してホスピタリティのある受入体制を構築し、市外からのスポーツ合宿の誘致を推進する。

・令和4年12月のハヤテグループによる「清水庵原球場を本拠地としたNPBファームリーグ加盟の新球団創設を目指す」旨の意向表明を踏まえ、令和5年2月に、当該本拠地化を推進する基本方針を決定した。今後、スポーツ活かしたMICEの推進等に向け、当該本拠地化を推進していく。

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
政策	2 世界レベルの芸術文化・スポーツを楽しむ機会の拡大を推進します
施策	3 オリンピック・パラリンピック・ラグビーW杯開催に向けた取組
施策の目的	2019年にラグビーワールドカップが、2021年には東京2020オリンピック・パラリンピックという世界レベルの国際大会が国内で開催されます。これらの大会では事前合宿が行われることが多く、この合宿を静岡市内に誘致することにより、トップアスリートによる市民交流事業を実施するなど、スポーツに関する市民の意識の醸成を図るとともに、ジュニアの育成や国際交流機会の創出を目指します。

評価責任者	所属	観光交流文化局 スポーツ交流課
	氏名	課長 宮城島 清也

## (1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	ラグビーワールドカップに係る取組では、イタリア代表の合宿受入れに加え、選手による学校訪問等を実施し、児童生徒がスポーツへの関心を高めると共に異文化への理解を深めることができた。また、東京2020オリンピック・パラリンピックに係る取組では、東京2020オリンピック・パラリンピックの予選等で試合日程等が例年と異なり、合宿件数が目標値を下回ったが、これまで誘致を続けてきたサッカー女子日本代表の合宿が市内で実施されたほか、新たにモリヤスオリンピック委員会と覚書を締結し、東京2020オリンピック・パラリンピック時の合宿誘致を実現したため、総合評価は「A」とした。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	東京2020オリンピック・パラリンピックに係る取組では、新型コロナウイルス感染症の影響により大会が延期となり、予定していたホストタウン相手国・地域の事前合宿受入れも来年度に延期となったが、これまで誘致を続けてきた車いす男子バスケットボール日本代表チームによる継続した合宿誘致が実現したことから、総合評価は「A」とした。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、ホストタウン相手国・地域のうち、フランステコンドー代表チームの事前合宿の受入れを行うことができた。また、事前合宿が中止となったホストタウン相手国・地域を含め、応援動画の作成やオンラインを活用した交流事業を実施し、交流を深めることができたことから、総合評価は「A」とした。
	令和4年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	合宿誘致の目標値を大幅に下回ったが、令和4年5月に台湾陸上代表チームの合宿を受入れ、市内の小中学生から応援動画を送る等の交流事業を実施した。また、過去に受入実績のあるウエイトリフティング男子ナショナルチームの合宿を再び受入を実施したため、総合評価は「B」とした。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。  
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## (2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（％）	評価	目標値の算出根拠
	トップチームの合宿誘致数		5件 (H27～29の平均)	1	11件以上	8件	72.7%	c
2				2件以上	2件	100.0%	a	
3				5件以上	4件	80.0%	c	
4				8件以上	2件	25.0%	d	
指標成果外の			1					令和4年11月に東京で開催された「パラバドミントン世界選手権」において、出場していたスペインパラバドミントン選手に対し、激励を行った。市内施設での競技可能な国内の競技団体へ施設の紹介を行い、今後の合宿利用を推進した。ホストタウン関連事業の一つである、「ホストタウンリーダーの学校訪問」において、フランス出向中の市職員と市内の小中学生をオンラインで結び、現地の生の声を伝える等を行い、国際交流機会の創出を図った。
			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
ラグビーワールドカップ合宿等誘致事業	①イタリア代表チームの合宿受入れ（9/27～10/6）【令和元年度】	2	1	42,000	0	30,796	1.0	0.1	0.0	—
			2	—	—	—	—	—	—	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
合宿の誘致に伴う交流事業	①ラグビーイタリア代表チームの合宿受入れに伴う市民交流事業等の実施（学校訪問、市民交流、ラグビー教室の実施など）、大会開催前の機運醸成活動及び大会期間中に行われる公式イベントでの情報発信【令和元年度】 ②台湾陸上代表の合宿受入れに伴う市民交流事業の実施（学校訪問、民間事業者等との連携事業など）【令和元年度】 ③大会の延期により、予定していたホストタウン相手国・地域（台湾、スペイン、モリシャス）の合宿受入れが中止となったが、オンライン等を活用した市民交流事業の実施	3	1	上下事業に含む	0	上下事業に含む	—	—	—	—
			2	下事業に含む	0	下事業に含む	—	—	—	
			3	下事業に含む	—	下事業に含む	—	—	—	
			4	下事業に含む	—	下事業に含む	—	—	—	
東京2020オリンピック・パラリンピックの合宿等誘致事業	①2020年東京オリパラ事前合宿誘致方針に基づく誘致活動 ②東京2020オリンピック・パラリンピック事前合宿の受入れ（台湾陸上）【令和元年度】 ③国内競技団体等への誘致活動	1	1	44,656	0	27,881	1.4	0.1	0.0	○
			2	41,256	0	4,291	1.4	—	0.1	
			3	45,395	13,943	34,647	5.0	—	0.2	
			4	1,447	0	248	1.0	—	0.1	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

・台湾陸上協会と令和3年3月に「静岡市及び台湾陸上協会間の協力に関する覚書」を締結した。台湾陸上代表チームの継続的な合宿の受入のほか、陸上競技を通じた人的、文化的交流を行っていく。  
 ・他の国内外の競技団体とは、継続的に市内での合宿を実施してもらうように交渉を進めていくとともに、受け入れ施設との連携体制を構築し、情報の共有を図り、受入れのノウハウを確立していく。